

I 改訂の概要

1 作業体制

改訂作業に当たっては、野生生物について優れた学識経験を有する委員から構成された「岡山県野生動植物調査検討会」において、岡山県野生生物目録(2009)の作成以降、毎年度データの収集及び更新を行った。

また、検討会における体制は、「運営委員会」において、作業方針や事業スケジュールなど検討会の事業に関する重要事項を協議・決定し、「動物部会」、「昆虫部会」及び「植物部会」において、それぞれの対象分類群での選定作業を実施した。

◇「岡山県野生動植物調査検討会」(41名)

- 会長 ○ 千葉 喬 三 (中国学園大学長)
特別顧問 ○ 青野 孝 昭 (倉敷昆虫同好会)

〔動物部会〕(12名)

- 阿 部 司 (株式会社ラーゴ 生物多様性研究室長)
◎ ○ 江 田 伸 司 (倉敷市立自然史博物館 学芸員)
小 林 秀 司 (岡山理科大学 准教授)
阪 田 睦 子 (岡山県自然保護センター)
坂 本 明 弘 (倉敷市立自然史博物館友の会)
洲 脇 清 (倉敷の自然を守る会)
多 田 英 行 (日本野鳥の会岡山県支部)
中 田 和 義 (岡山大学 准教授)
○ 野 嶋 宏 一 (株式会社ウエスコ)
福 田 宏 (岡山大学 准教授)
○ 丸 山 健 司 (日本野鳥の会 岡山県支部長)
山 田 勝 (岡山県自然保護センター友の会)

〔昆虫部会〕(12名)

- ◎ ○ 伊 藤 國 彦 (岡山県立大学 名誉教授)
○ 奥 島 雄 一 (倉敷市立自然史博物館 学芸員)
加 藤 学 (倉敷昆虫同好会)
末 宗 安 之 (倉敷昆虫同好会)
高 橋 元 (岡山県立早島支援学校 教諭)
中 村 具 見 (倉敷昆虫同好会)
守 安 敦 (倉敷昆虫同好会)
山 地 治 (岡山昆虫談話会)
吉 澤 聡 史 (東洋産業株式会社)
○ 吉 鷹 一 郎 (関西高等学校 教諭)
渡 辺 昭 彦 (岡山昆虫談話会)
渡 辺 和 夫 (倉敷昆虫同好会)

〔植物部会〕（12名）

- 榎本 敬（倉敷市立自然史博物館友の会）
 - 太田 謙（岡山理科大学）
 - 片岡博行（医療法人 創和会 重井薬用植物園）
 - 片山 久（倉敷市立自然史博物館友の会）
 - 狩山俊悟（倉敷市立自然史博物館）
 - 地職 恵（岡山県自然保護センター）
 - 西村直樹（岡山理科大学）
 - 西本 孝
 - ◎ ○ 波田善夫（岡山理科大学）
 - 星野卓二（岡山理科大学）
 - 森定 伸（株式会社ウエスコ）
 - 山下 純（岡山大学 資源植物科学研究所）
-
- 公益財団法人岡山県環境保全事業団常務理事
 - 岡山県自然保護センター所長
 - 岡山県生活環境部自然環境課長

「◎」印は、部会長

「○」印は、運営委員会委員

（所属は、平成31年3月現在）

（敬称略、各分科会は五十音順）

事務局 ○ 公益財団法人岡山県環境保全事業団

◇協力員

- 〔動物部会〕 浅田 要 浅見 崇比呂 飯田 蒼太 伊藤 颯真 岩崎 敬二
上地 健琉 大谷ジャーマンウイラム 亀田 勇一 木村 昭一
木村 妙子 草加 耕司 久保 弘文 Frank Köhler 近藤 高貴
齊藤 匠 佐々木 彰央 佐藤 大義 佐藤 正典 締次 美穂
末永 崇之 瀬尾 友樹 高田(佐々木)歩 田中正敦
多留 聖典 中力 健治 鶴崎 展巨 John D. Taylor 中原 ゆうじ
芳賀 拓真 早瀬 善正 Angel Valdés 平野 尚浩 平野 弥生
Winston F. Ponder 元 陳力昇 柳 研介 吉松 定昭
和田 太一 渡部 哲也
- 〔植物部会〕 浅井 幹夫 池田 博 猪 雅人 岡田 智子 片岡 法子
川合 啓二 小見山 節夫 古屋野 寛 島岡 浩恵 高山 敬三
三好 薫 雪江 祥貴 熊瀬 徳輝 矢野 興一 ○

（敬称略、五十音順）

Ⅱ 岡山県野生生物目録

1 総括表

本書に掲載した種数は、下表のとおりである。（汽水・淡水魚類及び海水魚類の一部の種は、重複している。）

「岡山県野生生物目録 2019」掲載種の集計表（亜種・変種等を含む）

分 類 群		種 数	
動 物	脊椎動物門	哺乳類	53
		鳥類	396
		爬虫類	19
		両生類	21
		魚類	260
		(汽水・淡水魚類)	(128)
		(海水魚類)	(168)
	頭索動物門	1	
	尾索動物門	20	
	半索動物門	2	
	棘皮動物門	43	
	珍無腸動物門	2	
	節足動物門	昆虫類	9,505
		汎甲殻類	216
		ヤスデ類	16
		ムカデ類	7
		ダニ類	13
		ザトウムシ類	23
		クモ類	608
		カブトガニ類	1
		類線形動物門	2
		環形動物門	235
		軟体動物門	903
		毛顎動物門	1
		紐形動物門	16
		腕足動物門	6
		筈虫動物門	1
	苔虫動物門	13	
	内肛動物門	1	
	扁形動物門	8	
	二胚動物門	2	
	有櫛動物門	3	
刺胞動物門	64		
海綿動物門	24		
小 計		12,485	
植 物	維管束植物	シダ植物	247
		種子植物	2,585
	維管束植物以外の植物（コケ植物）		562
	小 計		3,394
合 計		15,879	

2 目録の解説項目と内容

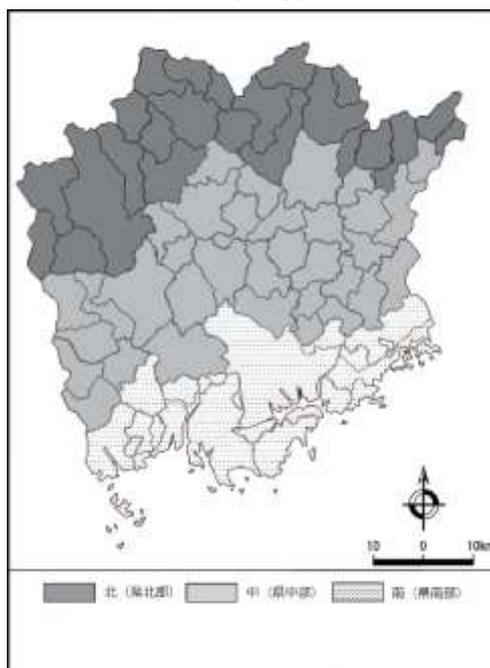
目録は、「番号」、「分類群」、「和名」、「学名」、「生息（生育）状況」、「生息（生育）環境区分等」、「岡山県版レッドデータブック」（岡山県版 RDB2020 発表後記載予定）、「環境省レッドリスト」、「備考」の各項目について記載した。

目録の作成にあたって準拠した文献等については、各分類群の別記のとおりである。

(1) 各項目の記載内容は以下のとおりである。

- ・番号：分類群ごとに通し番号とした。
- ・分類群：動物は原則、目名及び科名を記載するが、分類群によっては上位の分類群や下位の分類群を記載する場合もある。植物は科名を記載した。
- ・和名：各分類群で使用する体系に基づく名称を記載。
- ・学名：属名と種小名で示す二語名法を基本としたが、各分類群の慣例等必要に応じて命名者等も記した。
- ・生息（生育）状況：生物分布に影響する気象及び地象の特徴から、岡山県を3区域（北，中，南）に分け、それぞれの区域内における生息（生育）状況を記号で表した。
なお、生物相の違いから昆虫を除く動物では「海」、植物では「海岸」を別途設けた。
- ・生息（生育）環境区分等：主要な生息（生育）環境を記載した。
- ・環境省レッドリスト：環境省レッドリスト2017及び環境省版海洋生物レッドリストのカテゴリーを記載した。
- ・備考：生息数等の増減状況，分布的特徴，移入，環境指標，関連法令の指定等，別名，各生物種の特筆すべき事項を記載。

地域区分



北 (県北部)	中国山地及びその周辺地であり、概ね市町村としては新見市、新庄村、真庭市北部（平成大合併以前の旧市町村区での川上村、八束村、中和村、湯原町、美甘村、勝山町）、鏡野町、津山市北部（旧市町村区での阿波村、加茂町、勝北町）、奈義町、西粟倉村、美作市北部（旧市町村区での東粟倉村、勝田町）が該当する。
中 (県中部)	津山盆地及び吉備高原地域であり、概ね市町村としては高梁市、井原市、真庭市南部（旧市町村区での北房町、落合町、久世町）、吉備中央町、総社市北部（旧市町村区での総社市）、津山市南部（旧市町村区での久米町、津山市）、美咲町、久米南町、岡山市北部（旧市町村区での建部町、御津町）、赤磐市、勝央町、美作市南部（旧市町村区での美作町、英田町、作東町、大原町）、和気町、備前市北部（旧市町村区での吉永町）が該当する。
南 (県南部)	瀬戸内海沿岸の平野、低山地及び諸島部であり、概ね市町村としては笠岡市、矢掛町、里庄町、浅口市、総社南部（旧市町村区での清音村、山手村）、倉敷市、早島町、岡山市南部（旧市町村区での岡山市、瀬戸町、灘崎町）、玉野市、瀬戸内市、備前市南部（旧市町村区での備前市、日生町）が該当する。
海	海域（昆虫以外の動物で設定）
海岸	砂浜や干潟等（植物で設定）

生息（生育）状況

○	普通
+	少ない
(+)	過去数十年（20～50年程度）記録が無い
×	絶滅（過去50年以上記録が途絶えている。または、生息（生育）地の県内消滅が確実）
-	記録が無い
?	情報不足（生息（生育）状況の情報が不足し、判断ができない）